

**Q** ①市としての行政機能の方向性とそのビジョンについて

②もし方式の変更があるのであれば、そのことを各地域審議会に諮問しないのか。  
③各地域審議会からの意見並びに審議結果をどうように地域行政サービスにつなげていくのか。

④子どもたちと関係機関並びに地域ボランティアが参画し、地域の情報（防犯・防災・交通安全）を網羅したマップづくりが必要ではないか。

**A** ①市として、どうあるべきかを検討する内部組織（組織機構検討会）を設け検討しており、基本的にはできるだけ早い機会に本庁方式に移行したいが、時代の変化に対応するため、来年4月から分庁方式を取り入れてスタートする。また、行政のスリム化に努め将来の行政人数を350人という規模を考えている。  
②地域審議会は、建設的前向きな考えをもった委員会でありますので、これか

らも委員各位と十分なる意見交換を行うなど理解を得て行政を執行する。

③市として、現在も地域の方々の協力による防犯パトロールなどの諸事業を展開している。これからも地域の方々と連携を密にして、子どもたちを守る対策を推進する。

古谷 正之議員  
市政における農村の位置づけについて

**Q** 時代と共に、農村環境は深刻さをますますばかりです。

地域の生活改善で、農業排水路は生活、地域排水路となり水質汚濁は作物の生育への深刻な影響を与え、洪水時は一気に雨水が押し寄せ構造物の破損が広がっています。農道も一般道になり、農作業や灌漑施設への影響が深刻化しています。農家の現状を考えると、農家だけでこれらを維持管理することは出来ません。このまま放置すれば地域崩壊につながります。  
農村支援の統一基準を設

けて支援に当たれば、少ない費用で実効性が確保出来ると思います。農業幹線排水路は機能面で前述のように農業者の利用の範囲を大きく超えています。今後の維持管理は市で行うことは出来ませんか。

**A** 農業を取り巻く環境は大変厳しいことは承知しているが、都会と地方を考えた場合大きな格差が生じてきている。

農村機能保全のための農家支援基準については他町にしっかりとした基準があると聞くので早速参考にし、

私どもに遅れている点があれば早速取り組んで行きたい。幹線排水路についてはいろいろな面で大きな問題を抱えており、市としてはこの問題から逃れることは出来ないものと認識しているが、全面的に市が管理することについては時間を頂きたい。  
鈴木 清勝議員  
山武支所の庁舎建設問題について

**Q** ①山武支所の庁舎建設と山武市の将来構想について

②分庁方式に移行後の山武支所に配置予定の組織について

**A** ①基本的な考え方としては、総合支所方式から無駄のない形で、すみやかに本庁方式へ移行してゆこうとするものであります。その為には現在の施設を有効活用しながら、将来に役立つ建物を創り地域の皆様にご利用頂ける機能を中心に、地域の交流センター的な形で、アクセス道路と一体の計画が一番よいのではないかと検討中であります。分庁を基本とした新しい建設は非常に難しいし、地域住民の理解が得られないのではないかと考えております。

新しい庁舎の持つ機能は新しい山武市の発展のために、地域に新しい交流を創出する機能で、市民の健康、レクリエーション的な拠点として、山武市の山海の自然と親しんでいただけるような基地機能を持たせたよう

な建物がつくれたらよいなと考えております。  
②分庁方式につきましては、どこの建物にどの課を配置するかは、最終的な結論は未定でこれから十分な検討をしていく考えであります。いずれにしても、将来に禍根を残すことのないように、慎重に投資を抑える事を基本的な姿勢としていきます。

山崎喜世子議員  
生活排水対策について  
財政改革について

**Q** ①現在の農業集落排水事業の加入状況と建設コストをお聞きします。

②低コストで早期にでき市内全域をカバーできる「浄化槽市町村整備推進事業」の検討をするお考えをお聞きます。この事業のコストは一戸当たり約70万円です。  
③市の財政改革の具体的な取り組みを伺います。  
④財務諸表（バランスシート）の貸借対照表、行政コスト計算書、収支計算書、純資産変動計算書について、山武市はどの程度進んでい